令和2年度 八戸駅西地区まちづくり全体会議
（令和3年2月6日）実施報告書

目　　次

1.　日時・場所及び出席者 …… 2
2.　会議の様子 …… 3
3.　振り返りシート等の内容 …… 11

令 和 3 年 2 月

八戸市都市整備部

市 街 地 整 備 課

1. 日時・場所及び出席者

タイトル：令和２年度　八戸駅西地区まちづくり全体会議
日　　時：令和３年２月６日（土）　14:00～16:00
場　　所：上長公民館 ２階ホール
参 加 者：【盛り上がり隊】

（オンライン）

赤澤　勝崇 様　　吉田　悠馬 様　　中堀　哲也 様
長谷川　哲也 様　　松本　圭右 様

（公民館出席）

石橋　龍也 様　　上野　茂宣 様　　佐々木　美佐子 様
佐々木　正和 様　　澤田　育子 様　　箱﨑　彩英子 様
箱﨑　真也 様　　三浦　誠純 様　　岡田　英 様

【コアメンバー等】

柏の葉アーバンデザインセンター副センター長　三牧　浩也 様（オンライン）
まちなか広場研究所（マチニワアドバイザー）　山下　裕子 様（オンライン）
八戸工業大学工学部システム情報工学科学科長　武山　泰 様（オンライン）
八戸工業大学工学部土木建築工学科　西尾　洸毅 様
八戸学院大学学務部キャリア支援担当部長　松山　政義 様（オンライン）
八戸学院大学地域連携研究センター長　田中　哲 様
八戸工業高等専門学校産業システム工学科　金　善旭 様（オンライン）
クロススポーツマーケティング株式会社　青山　英治 様（オンライン）

【事務局】

市街地整備課　石橋　敏行　課長
田鎖　隆　副参事
藤谷　麻理子　主査　（オンライン）
清野　友佳　主事
高橋　司　技師

駅西区画整理事業所　舘花　正義　所長　（オンライン）
岩谷　寿　副所長（オンライン）
磯谷　悠太　主査　（オンライン）

コサカ技研　小泉　友二　坂本　雄太　酒田　善宏
堀　秀敏　穂積　弘樹　内沢　友子

2. 会議の様子

【第１部】

１.開会

定刻に、感染症対策などの留意事項を事務局よりアナウンスした後、開会した。

写真１：会場の様子

写真２：主催者挨拶（石橋）

２.主催者挨拶

（事務局　石橋）

今年度はコロナ禍によって、FLAT HACHINOHE のオープニングイベント中止に始まり、各種イベントが次々と中止せざるをえない状況となってしまい、八戸駅西地区の動きが低迷している状況と認識せざるをえない部分がある。しかし、「八戸駅西地区で盛り上がり隊（以下、盛り上がり隊）」が 11/29(日)に行われた東北フリーブレイズの試合日に合わせ、「ラジオ体操」や「マルシェ」を企画・開催することが出来、新たな一歩を進めることが出来たと思っている。

今までは、各々が集まって会議・イベントを実施している状況であった。まちづくり計画の目的でもある「シンボルロード沿線の商業施設の誘致」「まちづくり会社の検討」等について全体で打合せする機会が無かったので、全体会議を今回開催させて頂いた状況である。

今回は「盛り上がり隊」に事例紹介してもらうほか、アドバイザー・学識経験者からのコメントを頂きながら、今後のまちづくりに活かせればと思う。

３.まちづくりの経緯と状況の報告

※八戸駅西地区のまちづくりにおける経緯と状況について報告

資料のように駅西地区のまちづくりには様々な方に参加いただいています。本日の全体会議は、それぞれ動いてきた方々に一同に参加いただき、情報共有および意見交換を行い、今後の活動の一助なるように期待しながら開催させていただきました。

本日の会議では、率直な意見交換が出来ますように、よろしくお願いします。

写真３：事務局（田鎖、清野、コサカ技研）

４.FLAT HACHINOHE のご紹介

（XSM 社　青山）

昨年 4 月にオープンしたが、コロナ禍とぶつかってしまい各種イベントを中止せざるをえない状況であった。しかし、多目的に利用できる施設自体は出来上がっているため、これらを有効活用しながら対応していく状況とも言える。

施設の特徴として、常設アイスリンクをベースとしつつ断熱材を敷くことでバスケットボール等が出来る床面を作り上げることが出来ることが魅力だと言える。

八戸市は「氷都」とも呼ばれスケート文化が根付いているほか、「東北フリーブレイズ」を初め市内 90 チーム以上があるため、スポーツを核としたコンテンツが生まれる素地が揃っている。また、スポーツ振興・地域創生としても期待されているほか、政府が推進するスマート・ベニューの先進事例となる特徴を有しており、民間×行政の新しい連携モデルとしての魅力を有効活用していきたい。

写真４：ＸＳＭ社 青山 氏

最近の利用状況として、10 月から「アジアリーグアイスホッケー ジャパンカップ 2020」や「全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会」を開催しているほか、プロジェクションマッピング演出、学校行事への活用、キッチンカーの出店、展示会の実施などにも活用し始めている状況だが、今後も八戸市や地元住民と協力しながら、八戸駅西地区を盛り上げていく一助になりたいと思う。

５.八戸駅西地区で盛り上がり隊の取り組み紹介

(1) マルシェについて …… 佐々木 正和

11/29(日)に 12 店舗以上のお店を用意し、10:00～17:00 まで FLAT SPACE にてマルシェを開催させて頂き、当日は 50 万円程度の売上げを確保できた状況である。

当日は、アリーナ内でスケート教室が開催されていたので午前中から盛り上がることができたほか、八戸工業大学の西尾先生の協力の下、簡易的なテーブルやゲートを用意することで、おしゃれな空間作りにも配慮できたと思っている。

改善点としては、店舗の設置位置についての事前調整が上手くいかず、設置位置を変更せざるをえない状況になってしまったため、今後実施するにあたっての参考としていきたいと思う。

写真５：佐々木 氏

（※八工大 西尾先生より追加説明）

今回の実施にあたって電源確保などの問題が見えてきたため、次回以降の開始に向けての参考としていきたいと思う。また、FLAT SPACE だけに固執せずに別の場所を検討することも視野に入れるほか、別途イベントとも連携するなど、継続的に実施できるような方針を探り続けるべきだと思う。

(2) ラジオ体操について …… 箱﨑 真也

地域住民が定期的に集えるようにしたいとの狙いがあり、誰もが気軽に参加できる「健康」をキーワードとして、低コストで実施出来るものを検討した結果、実現性のある「ラジオ体操」を行うこととした。当日は、想定を上回る 100 名近い参加者を呼び込むことが出来ており、地域ニーズに合っていると感じている。

今後の目標としては、ラジオ体操を定例化していくことが重要になると考えており、2/7(日)に 2 回目のラジオ体操を実施する。ただし、これをゴールとするのではなく、地域住民が集まることで生まれるエネルギーを活かせるような下地作りだと考えており、別企画に繋がっていければと思う。

写真６：箱﨑 氏

写真７：澤田 氏

(3) 日常について …… 澤田　育子

FLAT HACHINOHE の利用形態などについて認知されていない部分があり、どのようにお知らせすべきか検討した結果、「ポスター・チラシ・回覧板などを活用」「町内会が見学会等を企画」等の意見が挙がった。

大きな活動は出来なかったが、別グループのイベントへの参加や手伝いながら、結果として FLAT HACHINOHE を地域住民に知ってもらう良い機会になったと思う。

コロナ禍が収束したら、FLAT HACHINOHE をウォーキングコースに取り込んだイベントや、アマチュアバンドが盛んな土地柄を活かした活動が出来たらと思う。

(4) 広報について …… 中堀　哲也

おもに映像発信による活動を行っているチームであり、今までに「駅西パフォーマンス」「駅西まちづくり PR 動画」などについて YouTube 等に掲載させて頂いている。

今後とも、動画発信できるようなコンテンツがあれば随時撮影などを行い、八戸駅西地区の盛り上がりに貢献したいと思う。

写真８：中堀氏と動画コンテンツの様子

(5) 盛り上がり隊として取り組んだこと …… 赤澤 勝崇

盛り上がり隊として「焚き火イベントの企画・実施（主催）」「ラジオ体操の企画協力・実施」「e スポーツの提案」等に参画している状況である。

「焚き火イベント」は、社会情勢を考えて希望を見出すための演出として 10/9(金)に初めて実施したイベントとなっているが、上手く軌道には乗せられていない状況である。

「ラジオ体操」は、基本的に箱﨑さんが主体となって実施しているイベントだが、多くの年齢層が参加している状況であり、次回以降も期待できると考えている。

写真９：赤澤 氏

(6) 八戸駅西地区のまちづくり活動 …… 吉田 悠馬

平成 30 年度には「八戸駅西地区まちづくり市民ワークショップ」が開催されたが、幅広い年齢層の参加者が集まって、シンボルロード・スポーツのまちづくり・公園の 3 テーマに分かれて話し合いを行い、まちづくり計画が策定された。

令和元年度には「3X3.EXE PREMIER 八戸ラウンド」が行われたが、来訪者の対応・バスケの応援・アンケート調査などを実施して、八戸市の盛り上がりに貢献する活動を実施できた。また、今後の活動方針などを考えるため「八戸駅西地区まちづくり協力隊メンバー全体会議」も開催されたが、FLAT HACHINOHE を活用したまちづくり活動・公園の活用法・八戸駅西地区に人が集まった際の問題点についての話し合いを行った。

写真１０：吉田 氏

令和 2 年度には「八戸駅西地区で盛り上がり隊」による定例会が開催されており、地区を盛り上げるための活動に尽力している。最近ではラジオ体操・マルシェが開催されたが多くの参加者が訪れ、大きな盛り上がりが生まれていると感じている。

現在は出来ることから活動を始めている状況であり、この流れが続くように努力する段階であり、最終的には皆で一緒にまちづくり出来る環境を作りあげたいと思う。

６.質疑応答

特に無かったため、休憩に入った。

【第２部】
７.アドバイザーによるプレゼンテーション

(1)　八戸の！多様なアクティヴィティ×虚（空間）　……　山下　裕子

「広場的空間」で地域のアクティヴィティが増えるような取り組みを考えている自治体が増えており、八戸市にある広場を上手く活用するためにアドバイザーとして携わっているが、広場の面白いポイントは、誰からも見られている状況だからこそ他人との繋がりが生まれるところである。

今できることをやっていこうという姿勢を持っている方々が多いと感じているため、チャレンジする人達の芽が出る場所になって欲しい。そのため、FLAT HACHINOHEを中心として盛り上がり隊の活動を進めていき、八戸駅西地区を知ってもらえるようなキャンペーンも実施できればと思う。

写真１１：山下 氏

海外の事例だが、車線を減らして広場的に活用できるように整備したり、道路の新たな活用方法を市民から提案する動きが世界的に広がっている。

現在、価値観を変えるべき状況になり始めていると考えており、何かを実践しようと思ったとき「広場的空間」のほうが対応しやすいと考えている。また、時間毎にターゲットとなる利用者について検討しておくことが、より具体的な計画検討のためにも重要になってくると思う。

現在、東京都内に「8bace」が出来たので、映像チームと連携して八戸市の情報を発信していくことが可能だと思うし、情報の送受信を担っていくのが八戸駅周辺の役割になってくると考えている。

(2)　八戸駅西のこれからに向けて　……　三牧　浩也

盛り上がり隊活動のほか、本日行っている全体会議は「スマート・ベニュー」の理想に向かうための活動に繋がっていると思う。

区画整理事業を進めたり、土地の売買を行う必要があるなかで、低迷している社会情勢にも対応した動きを進めていく必要があり難しい局面に立たされている。しかし、今回のコロナ禍によって生まれた新しい流れに対応しつつ、八戸駅西地区に新たな魅力を生み出していくために貪欲にチャレンジしていくことが大切であり、どのような駅前空間を目指していくか検討することが必要である。

写真１２：三牧 氏

駅西のこれからに向けて「１.スマートスポーツシティ（ソフト面）」「２.空間のシンボル性（ハード面）」「３.暫定利用・可変性」「４.ゆるやかな連携・フラットな関係で集まる場」の４つをキーワードとして取り上げているが、ソフト面・ハード面が連携することで開発・整備を進めることが出来るし、継続的なまちづくりを行うためにも暫定利用を認めたり、お互いの状況を共有できる連携体制を整えておくことがポイントになってくると考えている。

８.学識経験者の皆さまからのコメント

（八工大　武山）

　コロナ禍で出鼻をくじかれた感じがあるが、スタートから徐々に力をつけていけたと思うので、来たる大型イベントに向けて力を発揮できる体制を整えていきたい。

　八戸市の玄関口となる場所になるので、スマート・ベニューの考え方を取り込んだ地区計画を作れないかと感じている。スポーツを通じて盛り上げていくことも必要となってくると思う。

写真１３：武山 氏

（八工大　西尾）

　盛り上がり隊にも参加しており、八戸駅西地区のポテンシャルの高さを感じている。まちづくりは地域住民の「願い」が原動力だと考えており、その原動力があるからこそイベント類の企画･運営に繋がっていき、まちづくりが進展すると思っている。

　八戸駅西地区には「１.小さな目標を積み上げていくこと」「２.大きな目標に向かっていくこと」の２つの選択肢があることが魅力的だと感じている。地域住民が主体となって活動することで、各々に関連する課題を自分達で解決できるような体制を整えることで、将来の人口減少に向けての糧になればと考えている。

写真１４：西尾 氏

（学院大　田中）

　「作ったら育てること」が大切になると思っており、地区周辺で生活している「住民」やサポートする「行政」が連携していくためにも、それを上手く機能させるためにもマネジメントが重要となる。

　まちづくりに関わる資金調達をどのように進めるかが課題となるほか、まちづくりのための行動・活動を実際に行い、広報によって知らせていくことが重要である。

　今まで続けてきた盛り上がり隊活動を飽きずに続けることが重要となるため、核ともいえる組織を作ることが急務となると考えている。

写真１５：田中 氏

（学院大　松山）

盛り上がり隊が行っている活動について発信していくことが必要だと思う。また、活動に意欲的な人達については積極的にフォローできる体制を作ったり、自分達の活動が一目でわかるような仕組みを考えていくことも重要になる。

次回の会議では、三牧様が UDCK で活動しているなかで解決したいと感じている問題点などがあれば、今後の参考として教えて頂きたいと思う。

写真１６：松山 氏

（八高専　金）

まちづくりに必要となる要素として、「参加する地域住民」「活用できる地域資源」がある。実際にイベント等を企画・運営している点は凄いと思うが、実施したイベントの結果に対してチェックを行える受け皿が無い状態だと感じている。そのため、八戸駅西地区から挙がってくる情報をまとめるための組織作りが必要だと思う。ただし、地域資源だけで対応するのは限界があるため、行政等からの支援も必要になってくると思う。

八戸駅西地区の住民が主役ではあるが、「日常生活に関わるイベント」だけでなく「八戸市全体として行うイベント」のために活用していくことも必要になると考えている。

写真１７：金 氏

９.意見交換

（連合町内会長　上野）

八戸駅西地区の整備が進んでいるため景観が良くなっている状況のなか、アリーナを活用したイベント等を開催できたので、これを何度も続けていくことで八戸駅西地区を盛り上げたいと思う。また、アリーナやシンボルロードを今まで以上に活用する必要性も感じている。

写真１８：上野 氏

（市議会議員　岡田）

盛り上がり隊としては「ラジオ体操」に関わっていたが、それぞれ違う立場の人達が集まってイベントを企画・運営できたのは喜ばしいと思っている。これから活動するにあたって、自立して活動していくためにも活動資金や推進体制について改めて検討していくことが大切になってくるが、まずは出来ることから実践していくことが大事だと思っている。

写真１９：岡田 氏

（事務局　田鎖）

会場から「FLAT HACHINOHE の利用方法が分かりにくい」「盛り上がり隊の事務手続きが煩雑」という意見が出ているが、今年度の活動によって得られた情報を整理し、来年度に向けて可能な範囲で改善していきたいと考えている。

１０.令和３年度の目標

（事務局　田鎖）

「八戸駅西地区まちづくり計画」に示した８．今後のまちづくりの進め方の第一段階について具体化させ、地権者・出店希望者・XSM 社・盛り上がり隊・コアメンバーが「まちづくり（準備）協議会」に向けて参加・検討・協力するようなイメージを考えており、次年度の目標としていきたいと思っている。

１１.閉会

写真２０：会場の一般参加者の様子

写真２１：オンライン画面の様子

3. 振り返りシート等の内容

１．今回の話で良かったこと、楽しかったこと

・全国、世界の空間の活用事例がわかった。
・皆さんの思いが伝わった。
・とても有意義な時間でした。
・様々な学び、気付きもありました。
・今後の活動に活かしていきたいと思います。（いろいろとイベントも考えました！）
・今までの活動がわかったよかった。
・これからも参加していきたいと思った。
・町づくりについてたくさんの学びができた。
・事例紹介も含めて勉強になりました。
・八戸は日照時間が長いとは発見。
・他の都市から来る人の最初の１歩が八戸駅だという事が解っているけどあらためて認識しました。

２．言い足りなかったこと、わからなかったこと

・zoom の会議の方の音声が少し聞きづらかった。
・マルシェはなぜ、朝のセッティングの場所を２度も移動させられたのだろうか。
・FLAT HACHINOHE の利用申請がわかりにくい。
・盛り上がり隊は、事務局へ企画を通す際の手続きが煩雑で時間もかかる。

３．今後のまちづくりについてのご意見

・これからも引き続きよろしくお願いします。
・マルシェは、シンボルロードでも開催を検討できないものだろうか。
・外部資源をひろく活用しても良いのでは。（外部とのつながり）
・シンボルロードを中心に店舗等という意見もあるが、全く反対に店舗、建物等は何もなく自然的な姿を見せる方法もあるかもしれない。
・地域住民の方の思いをカタチにするためにサポートする形で関わっていければと思っています。
・自発的に地域住民の方の願いができるまでは、主体的に企画できればそちらを実施できればと思っています。
・２０２０年度はいろいろなイベントを通して駅西口とフラット八戸を知っていただけたと思います。
・２０２１年度は新幹線で来た人にも興味を持ってもらえる企画が出来ればいいと思っています。

４．オンライン会議について（主に事務局の反省点）

・オンラインに会場発表を取り込んだ形の会議であったが、当初の目的を果たすことができた。
・一人ひとりの発表時間がタイトで、持ち回りの発表で終わってしまった感もあるので、何らかの形で意見交換をできればさらによい。
・会場ではオンラインが聞こえにくく、オンラインでは会場が聞こえにくかった。特に会場のマイク、音量設定の調整をもう少し丁寧に行うべきだった。
・会場のＰＣは１台だったが、画面表示（司会）用のＰＣと、マイク切り替えなど手元作業用ＰＣの２台体制にすれば、もっと円滑に進められた。
・司会と別にタイムキーパー、会場係が進行を管理できればよかった。